



常呂川森林ふれあい推進センター

平成29年10月21日に、「オホーツクの森 森林散策会」が網走市で開催され、当センターは自然解説を担当しました。この催しは、網走市民を対象として、木を利用することによって、木や森の存在を身近に感じ、自然とともに生きることについて学ぶ機会を増やすため、木育の一環として行われているものです。

森林散策

常呂川森林ふれあい推進センターでは、森林環境教育に取組む企業・団体・NPO等の活動支援や技術指導を行うとともに、市町村の林務担当部局等と連携して、森林ふれあい活動に取組んでいます。今回は、当センターが網走市農政課・教育委員会と連携して行った取組を紹介します。

当日は、「オホーツクの森」の展望台（網走市で一番標高が高い場所）から、網走湖や能取湖・知床連山を眺望しました。



森林散策の様子

また、「古の森」での自然観察では、当センターの自然再生指導官が、植物や動物、土や水等が相互に関わりを持ち、森林が成り立っている様子を解説しました。参加者からは、「紅葉がきれいだった。」や「オホーツクの森について勉強になった。」等の感想がありました。

木工教室

平成29年1月11日に網走エコセンター2000で「冬休み木工クラフト教室」が開催され、当センターは「落ち葉のステンドグラス」と「木工クラフト」づくりを担当しました。

まず始めに、当センターの自然再生指導官からカッターナイフ等の道具の使い方と注意事項、作成のポイントを説明し、早速「落ち葉のステンドグラス」の作成にとりかかりました。



木工クラフト作成

この「落ち葉のステンドグラス」は、黒色画用紙へ切抜く型を描いた後、その型を切抜き、押し葉と一緒にラミネートフィルムに挟んで、熱着するものです。

また、「木工クラフト」づくりでは、子どもたちの自由な創造をテーマとしたところ、終了時間を過ぎても熱心に作成している子どももいましたが、最後はそれぞれの作品を持ち寄り、記念撮影を行いました。



作品を持ち寄り記念撮影

子どもたちからは「落ち葉のステンドグラスを窓に貼るとききれいだった。」や「マツボックリの工作が楽しかった。」等の感想がありました。